

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、25～30℃台を示し、平年並み～やや高いでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――台風の影響で出漁日数が少なかった。西彼地区ではマイワシなどが1日1統当たり20トンの水揚げで、前週の1.8倍（前年並み）。北松南部地区ではマサバなどが1日1統当たり17トンの水揚げで前週の1.3倍（前年並み）。
- イカ釣――スルメイカは対馬東岸地区では、1日1統当たり4kgの水揚げで、前週の2倍（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり55kgの水揚げで、前週の2倍（前年を上回った）。ケンサキイカは対馬東岸地区では、1日1統当たり71kgの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり1.1トンの水揚げで、前週の1.8倍（前年を下回った）。
- 定置網――五島有川地区では、マサバなどが1日1統当たり3トンの水揚げ。対馬西岸地区では、アラが1日1統当たり3kgの水揚げ。対馬東岸地区では、カンパチなどが1日1統当たり403kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、イサキが1日当たり394kgの水揚げで、前週の3.3倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（8/24～8/30の7日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、能登半島沖で操業。赤イカは北太平洋で操業。

沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～山陰沖～能登半島沖で操業。鳥取県西部（沖合船）は、3日延9隻、総計261箱、1航海最高58箱、平均29箱。スルメイカ（20～30入）104箱、ケンサキイカ（2立半～4立）157箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第6-16号 小トビ（トビウオ未成魚）飛翔目視調査結果」「第6-17号 五島灘・五島西沖・壱岐水道・対馬東水道（対馬南東）の観測結果」を発表しました。

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>